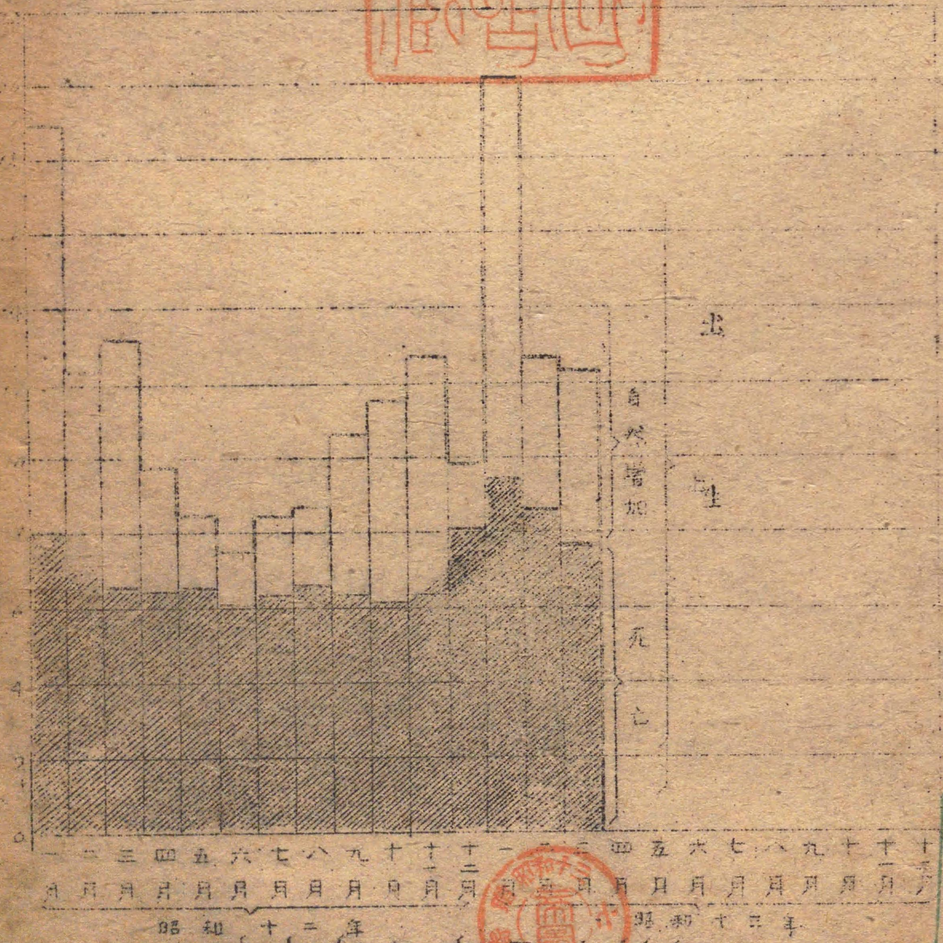
Y994
J8123

381
302

東京市 社況第百九号

昭和十三年人口動態概況

一月乃至三月

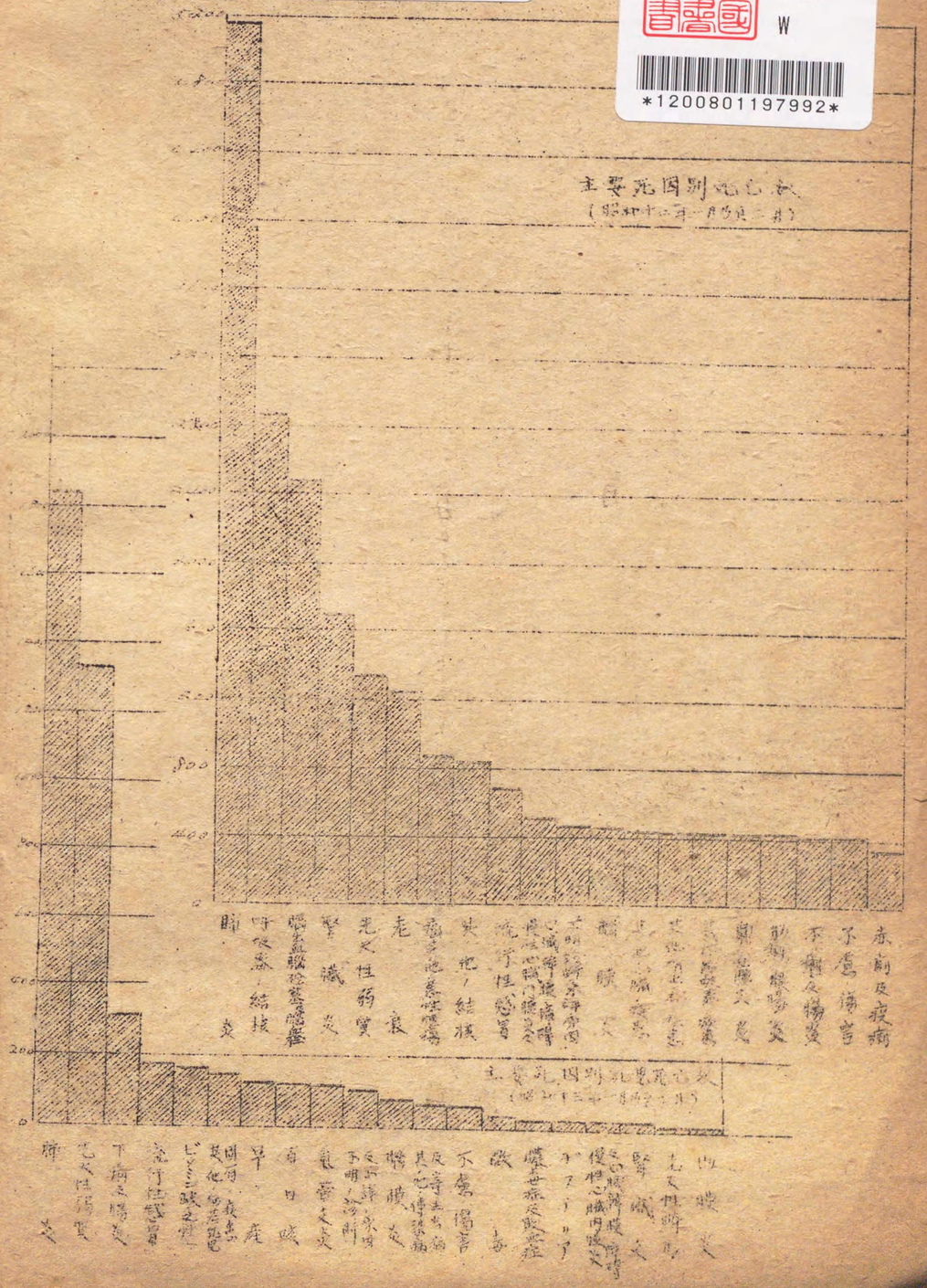


東京市企畫局統計課

昭和十三年七月十九日刷

發行所寄贈本

Y994-J8123
I種
W
1200801197992



昭和十三年人口動態概況（一月乃至三月）

内容

一 出生

(イ) 前年同期に比し微増す

	總數	男	女
昭和十二年一月乃至三月	四四六、八	三三四五九	三三、一五九
昭和十三年一月乃至三月	四五、二二二	三三、一九〇	二二、〇三二
増減（△印は減）	六〇四	七三一	△一二七
（%）	一・三五	三・二五	△〇・五七

(ロ) 男超過の割合微増す

	女百に付男
昭和十二年一月乃至三月	一〇一・四
昭和十三年一月乃至三月	一〇五・三

(ハ) 私生児の減少稍〻大なり

	出生	私生
昭和十二年一月乃至三月	四三、〇一四	一、六〇四
昭和十三年一月乃至三月	四三、六四七	一、五七五
増減（△印は減）	六三三	△二九
（%）	一・四七	△一・八一

二 死産

(イ) 前年同期に比し稍〻増加す

	總數	男	女
昭和十二年一月乃至三月	二二三二	一二二五	九八五
昭和十三年一月乃至三月	二二六九	一二八一	九八三
増減（△印は減）	三七	五六	△二
（%）	一・六六	四・五七	△〇・二〇

男女詳

	總數	男	女
昭和十二年一月乃至三月	二二	一二	一〇
昭和十三年一月乃至三月	二二	一二	一〇
増減（△印は減）	〇	〇	〇
（%）	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇

(ロ) 男超過の割合増大す

	女百に付男
昭和十二年一月乃至三月	一二四・四
昭和十三年一月乃至三月	一三〇・三

(ハ) 私生死産児激減す

	死産	私生
昭和十二年一月乃至三月	一、七〇八	五二二
昭和十三年一月乃至三月	一、八二六	四四三
増減（△印は減）	一一八	△七九
（%）	六・九一	△一七・八三

	總數	私生
昭和十二年一月乃至三月	二三、三九	一九・五二
昭和十三年一月乃至三月	二二・八七	一〇・〇〇

(ニ) 懐胎月数七箇月未満の増加稍〻大なり。

	七箇月未満	七箇月以上
昭和十二年一月乃至三月	一、五三〇	七〇二
昭和十三年一月乃至三月	一、五四八	七二一
増加	一八	一九
（%）	一・二六	二・六四

三 死亡

(イ) 前年に比し激増す

	總數	男	女
昭和十二年一月乃至三月	二二〇三三	一二、八四五	一〇、一八八
昭和十三年一月乃至三月	二六、一三四	一三、八七六	一二、二五八
増加	四、〇一	四、〇三一	二、〇七〇
（%）	一八・六一	一七・一五	二〇・三二

(ロ) 男超過の割合減退す

	女百に付男
昭和十二年一月乃至三月	一二六・三
昭和十三年一月乃至三月	一一三・二

(ハ) 有配偶者、死別者及離別者の死亡激増す

	未婚	有配偶	死別	離別
昭和十二年一月乃至三月	一、二七八二	五七一〇	三二一四	二〇八
昭和十三年一月乃至三月	一、二七四七	七七七九	四二八六	二五一
増加	九六五	二〇六九	一〇七二	四三
（%）	八二九	三六・三	三三・三五	二〇・六七

(ニ) 乳児死亡や、増加す

	總數	男	女	女百に付男
昭和十二年一月乃至三月	四九一四	二七五一	二一六三	一二七・二
昭和十三年一月乃至三月	五一七二	二八七九	二二九三	一二五・六
増減（△印は減）	二五八	一二八	一三〇	△一・六
（%）	五・二五	四・六五	六・〇一	

(ホ) 肺炎の死亡率が高い

總死亡（一月乃至三月）二六、一三四　一〇〇・〇%

肺炎	五、一六九	一九・八	
呼吸器の結核	二、八六五	二・一	
脳出血軟化及血栓	二、四七七	九・五	
腎臓炎	一、六九一	六・五	
先天性虚弱	一、三四四	五・一	
其の他	一、五八八	四・〇	

(ヘ) 乳児死亡（一月乃至三月）

肺炎	五、一七二	一〇〇・〇%
先天性虚弱	一、八四〇	三五・六
其の他	一、三四四	二六・〇
	一、九八八	三八・四

四 自然増加

(イ) 自然増加激減す

	全市	旧市部	新市部
昭和十二年一月乃至三月	二二、五八五	六、二四三	一六、三四二
昭和十三年一月乃至三月	一九、〇八八	五、〇四三	一四、〇四五
減少	三、四九七	一、二〇〇	二、二九七
（%）	一五・四八	一九・二二	一四・〇六

(ロ) 男超過の割合減退す

	女百に付男
昭和十二年一月乃至三月	八八・七
昭和十三年一月乃至三月	九五・三

五 婚姻

前年同期に比し微減す

昭和十二年一月乃至三月　一〇八四
昭和十三年一月乃至三月　一〇一六三
減少　六四一
（名）（五九三）

六 離婚

前年同期に比し著減す

昭和十二年一月乃至三月　八八九
昭和十三年一月乃至三月　七九四
減少　九五
（名）（一〇・六九）

昭和十三年人口動態概況（一月乃至三月）

一 出生

(イ) 出生数

本年一月以降三月迄の本市に於ける出生累計は四五、二二二を計上し一日平均五〇二（一時間平均二一）に該る。

之を前年同期に較べると六〇四（一・三五%）の微増である。

次に出生数を一月以降各月に就いて前年同月に較べると一月（五・五八%）、二月（二・六一%）と累増したが三月逆転して減少（五・八七%）を示すに至つた。

第一表 出生累月（○印減）

	昭和十三年	昭和十二年	対前年増減	増減割合（%）
一月	二〇、〇〇八	一八、九五〇	一〇五八	五・五八
二月	一二、七三五	一二、四一一	三二四	二・六一
三月	一三、四七九	一三、二五七	△七七八	△五・八七
累計	四五、二二二	四四、六一八	六〇四	一・三五

(ロ) 區別出生

最も多く豊島、本所、世田谷、向島、深川、浅草、大森、足立之に亜ぎ何れも一七〇以上を示し、最も少いのは麹町の二五〇であつて赤坂、四谷、日本橋、麻布之に亜ぎ何れも六〇に満たない。

之を前年同期に較べると神田は増減なく旧市部の日本橋、京橋、芝、赤坂、四谷、小石川、下谷、本所の八區、新市部の荏原、豊島、王子、足立、向島、城東の六區は減少し爾餘の二十區は何れも増加を見、かくて旧市部に於て三大減少したるも新市部に於て六四〇の増加を見た結果

全体として六四の増加を見るに至った。

第二表　區別出生

昭和十三年

區名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
全市	二〇、〇〇八	一二、七三五	一二、四七九	四五、二二二	四四、六一八	△三六
旧市部	六、二一九	三、九一九	三、七〇二	一三、八四〇	一三、八七六	
麹町	一一九	七七	五四	二五〇	二四五	△五
神田	三五六	二一五	一九七	七六八	七六八	
日本橋	二〇八	一三七	一四〇	四四九	五一〇	△一五
芝	四八一	二八四	二四〇	九四五	九六四	△二五
京橋	四六一	二八四	二四〇	一〇五五	一〇九九	△一四
麻布	二五九	一六三	一五一	五七五	五二九	△四六
赤坂	一一六	一七七	一〇二	二八四〇	三〇四〇	△二〇
四谷	三六三	二〇七	一八一	三七九	四〇七	△三八
牛込	四四六	一九六	一四〇	七八〇	七六四〇	△一六
小石川	一四〇	二七九	二五九	九七九	九九〇	△二〇
本郷	三五三	二七七	二四二	八一六	七九二	△一
下谷	三七七	二五一	一九六	一五六	一六五	△四
浅草	二七五	一五一	一四〇	一〇九	一〇九	△〇
本所	七八七	四五六	四四〇	一六四	一六四	△一
深川	二七三	二四五	二四〇	一〇五	一〇五	△〇
品川	六七三	四四〇	三四〇	一四〇	一四〇	△〇
目黒	六三一	四四〇	三四〇	一四〇	一四〇	△〇
荏原	六四一	四七〇	三四〇	一四一	一四〇	△一
大森	七三八	五八五	四四〇	一七二	一七〇	△二
蒲田	七一二	四五二	四四〇	一五五	一五〇	△五
新市部	一三、七八九	八八一六	八一七七	三三、三八二	三四、七四二	△一、七〇九
麹町	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
神田	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
日本橋	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
芝	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
京橋	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
麻布	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
赤坂	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
四谷	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
牛込	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
小石川	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
本郷	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
下谷	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
浅草	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
本所	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
深川	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
品川	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
目黒	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
荏原	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
大森	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇
蒲田	一一一	一〇一	一〇一	三一〇	三一〇	△〇

(八)

出生児の体性

二三、一九〇、女二二、〇三二であって男は女より一、一五八多く、女百に付男一〇五・三に該る。之を前年同期に較べるに女は稍減少したるも男の増加著しい為男超過の割合は三・九の上昇を示すに至った。次に女百に付男の割合を各月に就いて見るに常に男超過にして、之を前年各月に比すれば一月は前年の女超過に対し著しき男超過を示し、二月男超過稍〻低下を見たるも、三月再び男超過の微増を見るに至った。

第三表　出生児の体性

	一月以降三月迄の出生累計	一月	二月	三月
全市	四五、二二二	一、八六九	一、七六七	一〇九二
旧市部	一三、八四〇	一、〇四七	一、〇四四	一、〇四四
麹町	二五〇	一、九六大	一、七〇八	一、七七九
神田	七六八	二、八九二	二、八六八	二、八九九
日本橋	五一〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
芝	九四九	一、六六八	一、六四〇	一、六四〇
京橋	一〇五五	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
麻布	五七五	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
赤坂	二八四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
四谷	三七九	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
牛込	七八〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
小石川	九七九	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
本郷	八一六	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
下谷	一五六	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
浅草	一〇九	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
本所	一六四	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
深川	一〇五	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
品川	一四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
目黒	一四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
荏原	一七二	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
大森	二四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
蒲田	一五五	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
新市部	三一、三八二	一、七七七	一、七四五	一、八一六
麹町	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
神田	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
日本橋	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
芝	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
京橋	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
麻布	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
赤坂	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
四谷	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
牛込	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
小石川	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
本郷	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
下谷	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
浅草	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
本所	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
深川	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
品川	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
目黒	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
荏原	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
大森	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一
蒲田	三一〇	一〇一	一〇一	一〇一

(二)

出生児の身分

	昭和十三年 男	昭和十三年 女	昭和十三年 女百に付男	昭和十二年 男	昭和十二年 女	昭和十二年 女百に付男	対前年増減 男	対前年増減 女	対前年増減 女百に付男
一月	一〇、〇四五	九、五六六	一〇九・二	九、三二六	九、六二四	九八・九	一、一一六	△ 五八	一二・三
二月	六、三八六	六、三四九	一〇〇・六	六、〇〇九	六、〇〇二	一〇六・八	△ 二二	三四七	△ 六・二
三月	六、三六二	六、一一七	一〇四・〇	六、七二四	六、五三三	一〇二・九	△ 三六二	△ 四一六	一・一
累計	二二、一九〇	二二、〇三二	一〇五・三	二二、四五九	二二、一五九	一〇一・四	七三一	△ 一二七	三・九

昭和十三年 公生児 私生 総数百中私生

	公生	私生	総数百中私生
一月	一九、三四〇	六六八	三・三四
二月	一四、三一二	四二三	三・三二
三月	一二、九九五	四八四	三・八八
累計	四三、六四七	一、五七五	三・四八

昭和十二年 公生 私生 総数百中私生

	公生	私生	総数百中私生
一月	一八、三〇五	六四五	三・四〇
二月	一一、九九七	四一四	三・三四
三月	一二、七一二	五四五	四・一一
累計	四三、〇一四	一、六〇四	三・五九

対前年増減

	公生	私生	総数百中私生
一月	一、〇三五	一三	△〇・〇六
二月	七一七	九	△〇・〇二
三月	△ 六一	△ 一二	△〇・二三
累計	六三三	△ 二九	△〇・一一

第四表　出生児の身分（△印減）

	男	女	女百に付男	男	女	女百に付男	男	女	女百に付男
一月	一〇、一一四	九、九二八	三・二〇	一〇、〇八六	九、〇二八	三・〇〇	△〇・〇六
二月	六、一八二	六、一八三	三・五三	六、一八六	六、〇〇四	三・一〇	△〇・四三
三月	六、一一七	六、〇〇四	三・八九	二八〇	二八〇	三・〇一	△〇・一六
累計	二二、四〇一	二一、六五五	三・三九	七七七	七五八	三・五八	△〇・二七
一月	九、二二六	九、二七七	三・五五	三四〇	三四七	三・六一	△ 五一
二月	六、一三〇	五、八一四	三・四五	二一九	一八八	三・一三	△ 三一六
三月	五、八七八	六、二六八	三・九一	二三九	二六五	三・〇六	△ 三九〇
累計	二一、二三四	二一、三五九	三・六二	七九八	八〇〇	三・六一	△ 一二五

(ホ)

区別私生児

区別に見ると荒川の六四〇名最も高く豊島、四谷、向島、葛飾、浅草、芝、足立、中野之に亜ぎ何れも四〇〇名以上を示し、最低は蒲田の一三六名であって日本橋、杉並、王子、世田谷、麹町、神田、江戸川之に亜ぎ何れも三〇名に満たない。

浅草、本所の八区、新市部で品川、目黒、蒲田、音羽、杉並、王子、足立、向島、葛飾、東京、江戸川十区は何れも低下し爾餘の十七区は僅ながら高率を見た。かくて旧市部〇・〇四〇名、新市部〇・五〇名全体として〇・一〇名を低下するに至った

第五表　区別私生児　（△印減）

	区別私生児	出生児（一月乃至三月累計）中私生の割合
荒川	六四〇	三・三〇
豊島	五四〇	三・〇六
四谷	四四〇	三・〇〇
向島	四〇〇	三・〇〇
葛飾	四〇〇	三・〇〇
浅草	三九〇	三・〇〇
芝	三八〇	三・〇〇
足立	三八〇	三・〇〇
中野	三四〇	三・〇〇
王子	三〇〇	三・〇〇
世田谷	二九〇	三・〇〇
麹町	二八〇	三・〇〇
神田	二七〇	三・〇〇
江戸川	二六〇	三・〇〇
日本橋	二四〇	三・〇〇
杉並	二二〇	三・〇〇
目黒	一九〇	三・〇〇
蒲田	一六〇	三・〇〇
音羽	一四〇	三・〇〇
杉並	一二〇	三・〇〇
王子	一〇〇	三・〇〇
足立	一〇〇	三・〇〇
向島	一〇〇	三・〇〇
葛飾	一〇〇	三・〇〇
東京	一〇〇	三・〇〇
江戸川	一〇〇	三・〇〇
旧市部	〇・〇四〇	三・〇〇
新市部	〇・五〇〇	三・〇〇

區名	昭和十三年 一月	二月	三月	一月乃至三月 總出生百中私生児の割合	昭和十二年 一月乃至三月	總出生百中私生児の割合	対前年増減 一月乃至三月	總出生百中私生児の割合
全市	六六八	四二三	四八四	一、五七五	三、四八	一、六〇四	△二九	△〇、一一
旧市部	二二一	一四六	一三七	五〇四	三、六八	五一〇	△六	△〇、〇四
麻布区	一	一	一	一	一	一	△一	△〇、〇一
赤坂区	四	四	五	二、四八	二、一七	一、六〇四	△一七	△〇、五五
四谷区	五	一	四	一、〇四	一、五四	一、〇五	△四	△〇、四
牛込区	二	一	二	二、一七	二、〇七	一、〇五	△一五	△〇、二六
小石川区	二	一	一	二、〇四	二、〇八	一、〇四	△二八	△〇、四
本郷区	一	一	一	一、〇九	一、〇六	一、〇四	△一五	△〇、二七
下谷区	一	一	一	一、〇四	一、〇四	一、〇四	△一	△〇、〇一
浅草区	二	二	二	二、〇五	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
本所区	二	二	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
深川区	二	二	三	二、〇五	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
芝区	二	一	一	一、〇四	一、〇四	一、〇四	△一	△〇、〇一
麻布区	一	一	一	一、〇四	一、〇四	一、〇四	△一	△〇、〇一
赤坂区	一	一	一	一、〇四	一、〇四	一、〇四	△一	△〇、〇一
四谷区	一	一	一	一、〇四	一、〇四	一、〇四	△一	△〇、〇一
牛込区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
小石川区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
本郷区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
下谷区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
浅草区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
本所区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
深川区	二	一	二	二、〇七	二、〇七	一、〇四	△一	△〇、〇一
芝区	一

最低は赤坂の九であって麻布、麹町、日本橋、四谷、神田之に亜ぎ何れも三〇に満たない概して旧市部の諸區に少く、新市部の諸區に多い。之を前年同期に較べると旧市部の神田、日本橋、芝、麻布、赤坂、下谷、本所、深川の八區、新市部の世田谷、澁谷、杉並、豊島、瀧野川、荒川、足立、城東の八區は減少し他の十九區は何れも増加した。かくて旧市部で四七の減少を見たるも新市部で八四増加せる為全体として三七増加するに至った。

第七表　區別死産（△印減）

區名	昭和十三年 一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
全市	八四〇	七九五	六三四	二、二六九	二、二三二	三七
旧市部	二五〇	二五五	二〇九	七一四	七六一	△四七
麹町	一〇	一一	七	二一	一六	△五
神田	八	一一	九	二八	二八	△一九
日本橋	一八	六	八	二二	四七	△一三
芝	一七	一五	二三	五九	三五	△一三
京橋		二〇	一二	四九	六二	△一三
麻布	五	七	八	二〇	一八	△一
赤坂	六	二	一	九	二	△九
四谷	一	一	一	三	四	△一
牛込	一	四	一五	二〇	二七	△一三
小石川	一九	二四	一五	五八	四二	△一六
本所	三二	四四	二一	九七	一一六	△一九
深川	二五	二八	二四	七七	九六	△一九

區名	昭和十三年 一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
新市部	五九〇	五四〇	四二五	一、五五五	一、四七一	八四
呂川	三	二	一	六	七	△一
日黒	二	四	一	七	六	△一
目黒	三	二	一	六	七	△一
荏原	三	七	一	一一	一一	△一
大森	二	七	一	一〇	一一	△一
蒲田	一八	二	一	一一	一一	△一
淀橋	九	四	一	一四	一一	△一
中野	三	二	一	六	七	△一
杉並	三	一	一	五	六	△一
豊島	二	二	一	五	六	△一
滝野川	二	二	一	五	六	△一
荒川	二	二	一	五	六	△一
王子	二	二	一	五	六	△一
板橋	三	二	一	六	七	△一
足立	四	二	一	七	七	△一
向島	二	二	一	五	六	△一
城東	二	二	一	五	六	△一
葛飾	二	二	一	五	六	△一
江戸川	三	二	一	六	七	△一

(一)　死産児の体性

（外に男女不詳一五）であって男は女より二九八多く、女百に付男一三〇・三に該る。之を前年同期に較べると女僅かに減少したが男増加著かりし為男超過割合は五・九を増すに至った。

次に一月以降各月に就いて男女の割合を前年と比べるに両年各月共著しき男超過を示し一月乃至二月は前年同月に比し男超過高率なりしも三月は低率を示してゐる。

第八表　死産児の体性（男女不詳を除く）（△印減）

	昭和十三年 男	女	女百に付男	昭和十二年 男	女	女百に付男	対前年増減 男	女	女百に付男
一月	四八〇	三五八	一三〇・一	四三九	三七一	一一八・三	四一	△一三	一五・八
二月	四五一	三四一	一三二・三	三八五	三四八	一二五・〇	六六		七・三
三月	三五〇	二八四	一二五・二	四〇一	三三六	一三一・〇	△五一	△二二	七・八
累計	一、二八一	九八三	一三〇・三	一、二二五	九八五	一二四・四	△五六	△二	五・九

(二)　死産児の身分

一月以降三月迄の死産累計二、二六九を身分に分つと公生児は一、八二六であって總数の八〇・四八%を占め私生児（庶子を含む）は四四三（一九・五二%）である。之を前年同期に較べると公生児の増加を見たるも私生児は却って八一

（一五・四六名）の激減を見総死産中―私生死産児の割合は三・九六名を減ずるに至る。総数百中私生児の割合を男女別に見ると前年同期同様女は男に較べて稍高い。

第九表　死産児の身分（△印減）

	総数			男			女			男女不詳		
	一二月	三月	累計	一二月	三月	累計	一二月	三月	累計	一二月	三月	累計
昭和十三年 公生	六八七	六四〇	一、八二六	三九一	三六六	一、〇三五	二九四	二七二	二、〇二一	二	一	四
私生	一五三	一五五	四九九	八九	八五	二四六	六四	六九	一九六	一	一	一
総数百中私生	一八・二一	一九・五〇	二一・三六	一八・五四	二四・二二	二〇・五七	一七・八八	二〇・二三	一九・九四		三三・三三	二〇・〇〇
昭和十二年 公生	六二〇	五四五	一、七〇八	三三一	三〇二	三〇九	二八五	二三五	九四二	〇	八	一八
私生	一九二	一五八	五二二	一〇七	八三	九二	八五	七三	二八二	一	二	〇
総数百中私生	二三・五九	二二・四八	二四・〇六	二四・三七	二一・五六	二二・九四	二二・九一	二三・七〇	二三・〇〇		二〇・〇〇	一八・一八
対前年増減 公生	△三九	△五・三八	△一一八	△六〇	△一八	△五・八三	△二一	△三七	△九三	△二	△六	△一四
私生	△三	△二・九八	△七九	△二四	△二・六六	△二・三七	△五・四七	△一五	△三・六	△一	△一	△三
総数百中私生	△二・〇六	△三・七〇	△三・八七	△二・〇二	△二・〇〇	△二・三七	△二・九四	△二・七〇	△三・〇〇	△二・〇〇	△二・五〇	△一・八二

昭和十二年一月中に外に身分不詳二名あり

（ホ）

区別私生死産児――総死産百中私生児の割合（一月乃至三月累計）を区別に見ると最高は向島の三二・六一であつて深川、浅草、目黒、淀橋之に亜ぎ何れも二五・〇〇以上

之に亜ぐ何れも一五・〇〇に満たない。

之を昨年同期に較べると旧市部で麹町、神田、本郷、澤川の四区、新市部で目黒、蒲田、淀橋、王子、足立、向島の六区は何れも僅かながら高率を示したるも爾餘の二十五区は何れも低下を見かくて旧一部五五四、新市部二九一全体として三八七の低下を示すに至つた。

第十表　区別私生死産児（△印減）

区名	昭和十三年 一月	二月	三月	一月乃至三月	総死産百中私生児の割合	昭和十二年 一月乃至三月	総死産百中私生児の割合	対前年増減 一月乃至三月	総死産百中私生児の割合
全市	一五三	一五九	一三五	四四三	一九・一二	五二二	二三・三九	△七九	△三・八七
旧市部	四六	五五	四八	一四九	二〇・八一	一〇一	二六・四一	△五二	△五・五四
麹町	四一	四一	一一	六一	一九・〇九	三	一八・七五	△	△一・〇〇
神田	一一	一四	一一	四	二一・四三	一〇	一四・二九	△	△九・七〇
日本橋	二	二	二	六	二〇・五五	五	二七・五九	△	△一・七〇
京橋	二	一	一	四	二二・四五	一五	二〇・一九	△	△二・四〇
麻布	一	三	一	五	一〇・〇〇	五	一一・一一	△	△一・一三
赤坂	一	〇	二	三	二一・八二	一一	二二・七二	△	△一・八
四谷	七	九	四	二〇	二〇・〇〇	一一	二〇・〇〇	△	△二・七二
牛込	五	七	四	一六	二一・四五	一一	二二・〇〇	△	△二・〇〇
小石川	一一	一一	一一	三三	一九・九二	一一	二一・一一	△	△一・八
本郷	一一	一一	一一	三三	一九・八七	一一	二一・一一	△	△一・八七
下谷	一一	一一	一一	三三	一九・二九	一一	二一・一一	△	△一・二九
浅草	一一	一一	一一	三三	一九・五二	一一	二一・一一	△	△一・五二
本所	一一	一一	一一	三三	一九・八七	一一	二一・一一	△	△一・八七
深川	一一	一一	一一	三三	一九・八七	一一	二一・一一	△	△一・八七

(ハ)

死産児の懐孕月数

――――死産児の懐孕月数を七箇月以上と七箇月未満とに分つと前者は一、五四八（六八・三二%）、後者は七二一（三一・七八%）であつて七箇月以上の死産が多い。之を前年同期に較べると両者共に増加したがその割合は七箇月未満稍〻高い。之を男女別に見るに男にありては七箇月以上の割合は女に比し僅かに高率であつて前年同期の割合に較べると、男女何れも低率と見たが女の減退稍〻著しい。

市部	昭和十三年（一月乃至三月）七箇月以上	昭和十三年（一月乃至三月）七箇月未満	昭和十三年（一月乃至三月）総死産百中七箇月以上	昭和十二年（一月乃至三月）七箇月以上	昭和十二年（一月乃至三月）七箇月未満	昭和十二年（一月乃至三月）総死産百中七箇月以上	対前年増減 七箇月以上	対前年増減 七箇月未満	対前年増減 総死産百中七箇月以上
品川	一〇七	一〇〇	八七	二九四	一八・九一	三二一	一五	一九	△二・九一
目黒	八六	七五	六六	二六〇	二五・七六	二〇・五五	六	一八・一八	△七・一三
荏原	二六二	一五	一一三	一一一	一七・三九	一二・八二	△二	△一・八	△五・一四
大森	九八	四五	九四五	一一一	一七・七六	一一・五九	一一	一一・八六	△八・四九
蒲田	三四	七九	一一三	一一一	二五・七四	二一・三三	一五	一八・五二	△六
世田谷	一四一	一一	三七	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一四・〇〇
渋谷	九四	三七八	三七五	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
中野	一四	一一	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
杉並	一四七	一一	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
豊島	九	一五八	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
荒川	六	一四五	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
王子	九六	一一一	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
板橋	四六	四六七	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
練馬	九	一三	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
足立	六	一七	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
向島	九九五	四四九	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
城東	六一二	二一二	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
葛飾	二一二	一一一	一一一	一一一	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
江戸川	九九一	九八	一一一	一一一	二四・三二	二一・一三	一〇	二〇・三七	△一〇・八九
総数	一、五四八	七二一	六八・三二	一、五三〇	二〇・九一	三二・七八	一八	一九	△一・三三
男	八八六	三九五	六九・一六	八五三	一八・六九	三一・四三	一五	一八	△〇・四七
女	六六二	三二一	六七・三四	六七七	二五・〇〇〇	二〇・〇〇〇	一三・〇四	二〇・五五	△一〇・八九
男女詳	一	五	一	一	二二	一	一〇八	二〇	△一七

第十一表　死産児の懐孕月数　（△印減）

三、死亡

(イ)

死亡数

――――本年一月以降三月迄の本市に於ける死亡累計は二六、一三四であつて一日平均二九〇（一時間平均一二）に該る。之を前年同期に較べると四、一〇五（一八・六一%）の激増である。

第十二表　死亡累月

	昭和十三年	昭和十二年	対前年増減	増減割合（%）
一月	九、五三八	八、〇三六	一、五〇二	一八・六九
二月	八、七五一	七、二一二	一、五三九	二一・三四
三月	七、八四五	六、七八五	一、〇六〇	一五・六二
累計	二六、一三四	二二、〇三三	四、一〇一	一八・六一

次に各月の死亡数を前年同月に較べると一月及三月は何れも一五〇〇餘、三月は一〇〇〇餘の激増を示し、その割合一月一八・六九%、二月二一・三四%、三月一五・六二%の多きを数ふ。

(ロ)

區別死亡

――――一月以降三月迄の死亡累計を區別に見ると荒川の一、七二六が最も多く豊島、本所、浅草、板橋、深川之に亜ぎ何れも一、〇〇〇以上を示し最も

少いのは麹町の一七九であって赤坂、四谷、日本橋、麻布、神田、本郷之に亞ぎ何れも五〇〇に滿たない。

之を前年同期に較べると旧市部の四谷一區のみが稍こ減少したるも爾餘の三十四區は何れも増加し就中増加著しきは新市部の諸區に多く かくて新市部で二九三七旧市部で一、二六四全体として四、〇〇一の激増を見るに至った。

第十三表　區別死亡（△印減）

昭和十三年

區名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
全市	九、五三八	八、七五一	七、八四五	二六、一三四	二二、〇三三	四、一〇一
旧市部	三、三四九	二、九一八	三、六三〇	八、七九七	七、六三三	一、一六四
麹町	六七	五四	五八	一七九	一四五	三四
神田	一七一	一七〇	一一九	四七〇	三八四	四六〇
日本橋	一一五	九九	九三	三〇七	三五九	三四七
京橋	三〇六	一八二	一七七	五六五	二五四	五〇四
芝	二四一	二一六	二二五	六八二	六六〇	一六二
麻布	一	一	一	三	二	一
赤坂	一五九	七三	九一	三〇八	二八一	一五三
四谷	七〇二	八〇	五五	二六七	一五〇	一一七
牛込	二三	二〇	一四六	五〇九	四九七	四二
小石川	一七〇	一〇一	一八〇	四〇四	六〇四	一六〇
本郷	二二	二〇	二二	六〇四	六〇七	一〇
下谷	一	一	一	三	二	一
浅草	一八	一	一四	三〇八	二八一	一五三
深川	四四	四〇	三四	一一四	一一〇	一四
荒川	三〇二	二九五	三四二	八一八	七六六	一五二
豐島	一〇四	一〇〇	一〇〇	三〇四	二九二	一一二
淀橋	一〇七	一〇〇	一〇〇	三〇七	二八〇	一一七
中野	二〇八	二〇五	二〇七	六一〇	五九一	一九
杉並	二七五	二四六	二五七	七七八	六九一	一〇七
世田谷	三〇五	二八五	二九一	八七一	七一六	一五五
荏原	二五七	二〇六	二〇一	六〇六	五九一	一〇五
目黒	二九九	二四七	二三〇	七一六	六六八	一〇八
品川	二九七	二六九	二三〇	七七五	六九九	一〇七
大森	二三七	二〇二	一七七	六〇六	五七〇	一〇七
蒲田	三五五	二五四	二四〇	七五四	六七〇	一〇四
足立	三五五	三〇〇	二六七	八七二	七一〇	一七二
向島	三六七	三〇〇	二五二	八一九	七一七	一〇二
城東	三一七	三一〇	二三〇	八二七	七二〇	一〇七
葛飾	三三九	二九一	二二一	八一九	七三五	一〇四
江戸川	三三九	二七五	二二一	八一九	七三五	一〇四

新市部　六、二八九　五、八三三　五、二一五　一七、三三七　一四、四〇〇　二、九三七

(八)

死亡者の体性

一月乃至三月死亡累計二六、一三四中男一三、八七六、女一二、二九八であって男は女より一、六一八多く女百に付男一一三、二に該る。之を前年同期に較べると死亡数に於て男二、〇〇三一の増加に対し女二、〇七〇の増加を見たる為男超過の割合は三、一を低下するに至った。

次に各月女百に付男の割合を前年各月と較べると、各月就中男超過前年より低率であるが就中二月著しい。

第十四表　死亡者の体性（△印減）

昭和十二年

	男	女	女百に付男	対前年増減 男	対前年増減 女	対前年増減 女百に付男
一月	九、四三二	四、五〇六	一一一・七	四、二四四	三、七九二	一一一・九
二月	四、六一五	四、一三八	一一一・五	三、八九五	三、三一七	一一七・四
三月	四、二三一	三、六一〇	一一七・一	三、七〇六	三、〇七九	一二〇・四
累計	一三、八七六	一二、二五八	一一三・二	一一、八四五	一〇、一八八	一一六・三

(二)

死亡者の配偶関係

偶関係別に見ると未婚者の一三七四七が最も多く總數百中四八・七七を占め、之に次いでは有配偶者の七七七九（二九・七七）、死別者の四、二八六（一六・四〇）、離別者の二五一（〇・九六）の順である。之を前年同期に較べると有配偶者、死別者、離別者は高率を示し、未婚者は僅かながら低率を示してゐる。更に之を男女別に見ると男は女に比して未婚有配偶の割合が高く、女は男に比し死別、離別の割合が高い。之を前年同期に較べると離別を除く他はほぼ同様の態様を示してゐる。

第十五表　死亡者の配偶関係（△印減）

昭和十二年

	總數	未婚	有配偶	死別	離別	身分不詳	總數百中 未婚	有配偶	死別	離別	身分不詳	対前年増減 總數	總數百中
一月乃至三月	九、五三八	八、七五一	七、八四五	二六、一三四	一四、〇七七	一、五一一	四八・七七	一二・七八二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
四月乃至六月	一四、〇四四	一一、七九九	一一、〇四〇	三六、一三四	一六、〇四〇	一、五一一	四八・七七	一二・七八二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
七月乃至九月	一四、〇四四	一一、七九九	一一、〇四〇	三六、一三四	一六、〇四〇	一、五一一	四八・七七	一二・七八二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
一月乃至三月	一四、〇四四	一一、七九九	一一、〇四〇	三六、一三四	一六、〇四〇	一、五一一	四八・七七	一二・七八二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
總數百中	一〇〇・〇〇	四八・七七	一一・七八二	五三・四七	九・八五	△四・七〇	三・八五	一・〇七二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
一月乃至三月	一〇〇・〇〇	四八・七七	一一・七八二	五三・四七	九・八五	△四・七〇	三・八五	一・〇七二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七
總數百中	一〇〇・〇〇	四八・七七	一一・七八二	五三・四七	九・八五	△四・七〇	三・八五	一・〇七二	〇・九六	〇・一四	〇・〇八	△四三	〇・〇七

(ホ)

乳児死亡

一歳未満の乳児死亡者（一月乃至三月累計）は五、一七二（日平均五七）を計へ、死亡者總數の一九・七九%に該る。之を前年同期に較べると実數に於て二五八の増加を見たるも割合に於て却つて二・五一%を低下するに至つた。

第十六表　乳児死亡累計（△印減）

昭和十二年

	男	女	總數	死亡總數百中乳児死亡	対前年増減	死亡總數百中乳児死亡
一月	一、九九二	一、九七〇	三、九六二	二〇・八八	△三・六三	二〇・五一
二月	一、七八八	一、七〇六	三、四九四	二〇・四三	△三・二三	一九・六六
三月	一、三九二	一、二三八	二、六三〇	一七・七四	△四・五一	一八・二五
累計	五、一七二	四、九一四	一〇、〇八六	一九・七九	△二・五一	二〇・五一

ニハ・九・六・三・九・三・ワ・ム・ヒ・ヒ・ヒ

に於て男一二八、女一三〇を増加したる為、男超過の割合は一・六を低下した。

各月乳児死亡の男女割合を前年各月に較べると各月共男超過は稍〻低率を示し、就中一―三月の前年に対する低下著しい。

第十八表　死亡乳児の性別

	昭和十二年 男	昭和十二年 女	昭和十二年 女百に付男	昭和十三年 男	昭和十三年 女	昭和十三年 女百に付男	対前年増減 男	対前年増減 女	対前年増減 女百に付男
一月	一、一〇〇	一、九二	一〇二・二	一、〇八八	九六八	一〇二・八	一二	一〇	〇・一
二月	一、〇二二	七七六	一三〇・〇	七三八	六九五	一〇五・〇	四四	三八	〇・八
三月	七三七	六二五	一一八・〇	五四三	四二五	一二七・三	一一八	一二〇	〇・一
累計	三、八七九	三、〇九三	一二五・六	二、一六三	一、七五一	一二四・〇	二七四	一七二	〇・六

(イ) 原因別死亡

(イ)/(一) 死亡の原因

一月以降三月迄の死亡者二六、一三四の中、死因（中分類）に依りその主要なるものを摘記すると次の如くである。即ち之れら十種のみにて総死亡の六七・九六%を占め他種死因に因るものは何れも少数である。之を男女別に見るも大差なく唯男は女に比し「脳出血、脳栓塞及脳血栓」、「肺炎」並「呼吸器の結核」の比較的多きと、「老衰」並「其の他の結核」の比較的少き点に於て異るのみである。（第十九表参照）

	総数	男	女
48 肺炎	二六、一三四	一〇〇・〇〇	一九七八
11 呼吸器の結核	五、一六九	一〇〇・〇〇	一〇・九六
32 脳出血、脳栓塞及脳血栓	二、四七七	九、四八	九、四八
59 腎臓炎	一、六九一	六・四七	六・四七
74 先天性弱質（一歳未満）	一、三四四	五・一四	五・一四
78 老衰	一、二五三	四・八〇	四・八〇
18 癌、其の他の悪性腫瘍	八七六	三・三四	三・三四
12 其の他の結核	八五八	三・二八	三・二八
8 流行性感冒	六九八	二・六七	二・六七
40 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍	五三四	二・〇四	二・〇四

(イ)/(二) 乳児死亡の原因

主要なるものを挙げると下記の如くである。

	総数	男	女
48 肺炎	五、一七二	一〇〇・〇〇	一九・五八
74 先天性弱質	一、八四〇	三五・九九	二五・九九
52 下痢及腸炎	一、三三四	六・四六	六・四六
8 流行性感冒	三三四	三・六五	三・六五
23 ビタミン欠乏症	一八九	三・四〇	三・四〇
77 其の他の幼弱乳児固有の疾患	一七六	三・九二	三・九二
75 早産	一五一	二・九七	二・九七
6 百日咳	一三四	二・五九	二・五九
49 氣管支炎	一二〇	二・三二	二・三二
30 脳膜炎（結核性を除く）	九五	一・八四	一・八四

第十九表　死因中分類別死亡

昭和十三年一月乃至三月累計

	総数	死亡数 男	死亡数 女	乳児死亡 総数	乳児死亡 男	乳児死亡 女
総数	二六、一三四	一三、八七六	一二、二五八	五、一七二	二、八七九	二、二九三
1 腸チフス及パラチフス	九八	四九	四九	—	—	—
2 再帰熱	八二	三六	四六	—	—	—
3 発疹チフス	—	—	—	—	—	—

心臓、其瘤甲麻痺、脳膜、其他ノ血病、血液、血髓、ノ状態、性、腫瘍、ノ他、ノ、ノ、ノ

| | | |

区名	昭和十三年一月	昭和十三年二月	昭和十三年三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
新市部	七、五〇〇	二、九八三	三、五六二	一四、四四五	一六、三四二	△二、二九七
品川	三七九	一七七	一六五	七一八	七五八	△四〇三
目黒	三三六	一五二	一九二	七三六	八四三	△一〇七
荏原	二九二	一三一	一三五	六三三	九七四	△一一〇
大森	三六七	一八九	二二五	八五三	七八五	△一一〇
蒲田	四二九	二〇六	一七六	八三七	八三七	△一〇〇
世田谷	四六七	二〇六	一五一	九四七	九七九	△二三
渋谷	三三〇	二〇六	一五一	六四六	六一六	△二五
淀橋	二三〇	一四五	一四五	七二八	八一七	△一三
中野	三四五	二七七	一四二	六六二	七三七	△一四
杉並	三四四	一七七	一四五	七一一	九七九	△二四
豊島	四一四	一七五	一七九	七四一	九六二	△二四
滝野川	五一七	二二六	一八七	九三八	九六〇	△一三
荒川	四二七	二二六	一七五	八二〇	七六一	△一三
板橋	四二六	二二六	一七五	八七一	七九一	△一三
王子	三六九	一六五	一六五	七一一	七八五	△一三
足立	四四七	二三一	一二六	七四一	七九六	△一三
向島	三四七	二三一	一二六	七四一	七九六	△一三
城東	二七〇	一一九	一一六	五一一	六一〇	△一〇
葛飾	二八五	一三一	一二六	五一一	六一〇	△一〇
江戸川	四二五	二一六	二一六	六一一	七三〇	△一三

(ハ) 体性別人口の自然増加

人口の自然増加数一九、〇八八（一月乃至三月累計）中男九、三一四、女九、七七四、四大〇の女超過にして女百に付男の割合は九五・三に該る。之を前年同期に較べると共に女超過にして本年は男一、三〇〇の減に対し女二、一九七の減少を見た為に女百に付男の割合は大・大を上昇するに至った。一月以降各月の割合を前年同月に較べると一月は男の増加女の減少に伴い男の割合一九・八を高めたるも二月、三月は男の減少の割合女のそれに比し大なりし為女超過の割合は増大した。

第二十二表 体性別人口の自然増加（△印減）

	昭和十三年 男	昭和十三年 女	昭和十三年 女百に付男	昭和十二年 男	昭和十二年 女	昭和十二年 女百に付男	対前年増減 男	対前年増減 女	対前年増減 女百に付男
一月	五、四一〇	五、〇六〇	一〇六・九	五、〇八二	五、八三二	八七・一	△三二八	△七七二	一九・八
二月	一、七七三	二、二一一	八〇・二	二、五一〇	二、六八五	九三・六	△七四一	△四七四	一三・四
三月	二、一三一	二、五四五	八五・一	三、〇一八	三、四五四	八七・四	△八八七	△九五一	△二・三
累計	九、三一四	九、七七四	九五・三	一〇、六一四	一一、九七一	八八・七	△一、三〇〇	△二、一九七	六・六

五 婚姻

(イ) 婚姻件数

本年一月以降三月迄の本市に於ける婚姻件数は一〇、六三件（一日平均一一三件）であって前年同期に較べると大四一件（五・九三%）の減少である。次に婚姻件数を一月以降各月に就いて見るに逐月累増し三月は一月に比し一、二〇九件の増加を見た。之を前年同月に較べると各月共減退し殊に三月は著しく八〇五名を低下するに至った。

第二十三表 婚姻累月（△印減）

	昭和十三年	昭和十二年	対前年増減	対前年増減割合
一月	二、七〇三	二、八八七	△一八四	△六・三七
二月	三、五四八	三、六八八	△一四〇	△三・四一
三月	三、九一二	四、二五九	△三四七	△八・一五
累計	一〇、一六三	一〇、八〇四	△六四一	△五・九三

以上の如く婚姻の届出は本年に入り減退を見、前年事変発生後の激増の勢は年末迄に終息したるものゝ如くであり、本年に入り事変の影響は消極的な方向へ進まんとする兆を示すに至った。

(ロ) 區別婚姻

一月以降三月迄の婚姻累計を區別に見ると荒川の五三二件が最も多く、淺草、本所、豐島、向島之に亜ぎ何れも三五〇件以上を算へ最も少いのは麹町の六八件であつて赤坂、四谷、日本橋、麻布順次相亜ぎ何れも一五〇件に満たない。之も前年同期に較べると旧市部で京橋、芝、麻布、赤坂、四谷の五區、新市部で浅田谷、滝橋、瀧野川、王子、向島の五區は僅ながら増加したるも爾餘の二十五區は何れも減少しかくて旧市部で四〇四件、新市部で二八〇件、市外(註)で稍〻増加したるも全体として文四一件の減退を見るに至つた。

(註) 市外とは婚姻直前夫妻の孰れか一方の所在地が本市内に在り婚家の所在地が本市以外の地に在りたるものを指す。

第二十四表 區別婚姻 (△印減)

昭和十三年

區名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
總数	二、七〇三	三、五四八	三、九一二	一〇、一六三	一〇、八〇四	△六四一
全市	二、三五六	三、〇四七	三、三三九	八、七四二	九、四二六	△六、六八四
旧市部	八三四	一、一二七	一、一八〇	三、一四一	三、五四五	△四〇四
麹町	一七	二六	二五	六八	七六	△一八
神田	二五	五五	四六	一五三	一八七	△三四
日本橋	二二	四七	二四	一一七	一七〇	△五三
京橋	五一	七四	五四	一七〇	一九二	△二五
芝	七二	七二	一四	二九六	二九〇	六
麻布	一四	二四	一二	七〇	一二	△一二
赤坂	一九	三六	六一	一一九	一六一	△一七
四谷	一九	六四	六一	一一〇	一〇七	△一〇
牛込	六四	六四	六二	一八四	一九〇三	△一九八
小石川	一六	一九	二七	六三	一〇四	△四三

區名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
本郷	五〇	八五	一二六	二六二	二六〇	△二
下谷	三〇	九三	一二六	二〇八	二二〇	△一二
浅草	一一〇	一六四	一三六	四一〇	五三〇	△一二〇
本所	八五	九〇	一一〇	三〇五	三四四	△五
深川	七〇	六二	一一二	二九九	二七四	△二七
荒川	八四	七四	一一一	二九四	二九〇	△二
豐島	七七	八六	一一〇	二六三	二六〇	△三
王子	六八	一四五	一一二	二七五	二七〇	△二
滝野川	一四	八五	一一〇	二七〇	二七一	△一
板橋	六七	七四	八〇	二一七	二一〇	△一〇
荏原	一〇	一二	一四	二六	二六〇	△二
大崎	七〇	一一	一一	二二	二二〇	△一
目黒	六二	九四	一一	二七	二七〇	△一
品川	七〇	九四	一一	二七	二七〇	△一
荒川	六四	八九	一一	二六〇	二六〇	△一
東京	九一	一〇六	一一	二九〇	二九〇	△一
田端	七八	一一九	一一	二二八	二二〇	△一
浅田谷	八〇	一〇五	一一	二二〇	二二〇	△一
滝野川	一〇二	一一三	一一	二二五	二二〇	△二
滝橋	七三	七五	一一	二二七	二二〇	△一
巣鴨	七〇	九四	一一	二二四	二二〇	△一
中野	六三	九四	一一	二二六	二二〇	△一
杉並	七〇	九六	一一	二二六	二二〇	△一
荒川	六八	一一九	一一	二二八	二二〇	△一
瀧野川	一四	一八五	一一	二二四	二二〇	△一
王子	六八	一一〇	一一	二二〇	二二〇	△一
板橋	七七	一四七	一一	二二八	二二〇	△一
豐島	六七	一四四	一二	二二七	二二〇	△一
荒川	一〇	一八五	一一	二二〇	二二〇	△一
瀧野川	八〇	一〇五	一一	二二〇	二二〇	△一
王子	八〇	一一〇	一一	二二〇	二二〇	△一
板橋	六七	一四七	一一	二二四	二二〇	△一
足立	八二	一一〇	一一	二二三	二二〇	△一
向島	八一	一一〇	一一	二二一	二二〇	△一
葛飾	五四	七一	一一	二二〇	二二〇	△一
城東	五〇	一九	一一	二二〇	二二〇	△一
江戸川	六二	七四	一一	二二七	二二〇	△一
市外	三四七	五〇一	五四七	一四二八	一四一九	△一

六 離婚

(イ) 離婚件数

本年一月以降三月迄の本市に於ける離婚件数は七九四件(一日平均九件)であつて、前年同期に較べると九五件(一〇・六九%)

381
302

市部	旧市部	翻町	神田	日本橋	京橋	芝	麻布	赤坂	四谷	牛込	小石川	本郷	下谷	浅草	本所	深川	新市部	目黒	品川	大崎	蒲田	世田谷	渋谷	中野	杉並	豊島	滝野川	荒川	王子	板橋	足立	葛飾	江戸川
市外		麹町	日本橋	神田	京橋	芝	麻布	赤坂	四谷	牛込	小石川	本郷	下谷	浅草	本所	深川	新市部	目黒	品川	大崎	蒲田	世田谷	渋谷	中野	杉並	豊島	滝野川	荒川	王子	板橋	足立	葛飾	江戸川
	七六	一	二	七五	一七	一	二	一四	八五	一	四八	九	八	二七	一	三	四一	一	三	五一	四五	六	二八	五	大七	八五	四	二	八	一	二	四	二
九五		大	六	四五	五五	四	一	四	八	一	八六	一三	五	九	七	一	九	五	九	二七	九	五	一七	一	九	七	一	五	八	一	五	五	五
一四		五	九	九	大	一	七	一	七	一	九	一五	三	九	一二	一	二	八	九	六	二	一	八	一	八	五	三	一	一	一	一	三	四
三		一	一	二	二	二	七	九	七	二	二	三	八	二	四	三	一	二	一	二	一	一	一	二	一	二	一	二	二	二	二	一	一
三		一	七	一	九	三	八	三	三	一	五	六	六	一	二	九	六	九	五	四	二	六	七	八	六	七	四	一	六	一	三	大	九
三		一	二	二	一	一	一	一	二	一	一	四	三	二	三	一	八	二	二	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一	二	二	一	一
二		七	八	一	五	大	七	一	一	一	大	一	三	四	五	三	七	一	二	二	二	一	一	二	一	二	一	一	大	九	三	四	四
△		△	△	△	△		△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
一		一	一	四	四	一	四	九	八	二	四	一	二	五	六	七	一	八	七	一	四	三	八	一	二	一	一	一	一	一	二	二	九

（ロ）

区別離婚

一月以降三月迄の累計を区別に見ると最高は浅草の四六件であつて本所、下谷之に亜ぎ何れも三〇件以上を示し、最低は赤坂の八件であつて麹町、江戸川、麻布、四谷、大森、瀧野川、葛飾之に亜ぎ何れも一五件に満たない。之を前年同期に較べると芝、中野は増減なく、旧市部の麹町、日本橋、赤坂、四谷、牛込、小石川、下谷の七区、新市部の目黒、瀧野川、王子、足立、城東、葛飾の六区は僅かながら増加し爾餘の二十区は何れも減少した。かくて旧市部で一二件の増加を見たるも新市部で八七件、市外で一九件減少せる為全体として九五件減少するに至つた。尚市外（註参照）は九五件であつて前年同期に比し一九件の減退である。

（註 市外とは離婚当時夫妻の就籍が一方の所在地が本市内に在り、婚家の所在地が本市以外の地に在りたるものを指す。（△印減））

第二十六表　区別離婚

昭和十三年

区名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
総数	二〇二	二七二	三二〇	七九四	八八九	△九五
全市	一七四	二三〇	二九五	六九九	七七五	△七六

昭和十二年　対前年増減

区名	一月	二月	三月	一月乃至三月	前年同期	対前年増減
総数	二〇二	二二八	二六〇	六四〇	七〇九	△六九
全市	一七四	二七二	三一九	七七五	八八九	△一四・七二%
			△四七	△二二	△九五	△一〇・六九

累計

第二十六表の著減である。次に各月離婚件数を前年同月に較べると各月共減少したが就中二月の減少（一四・七二%）著しい。